

研修議事録

日時	平成30年11月22日(木) 14時～16時30分	場所	サンスクエア堺
参加人数	70名	講師名	梅花女子大学 伊丹昌一 教授
テーマ	「ちょっと気になる子どもへの気づきと対応」		
<p>◎支援を必要とする子ども</p> <p>身体運動症・知的発達症、発達症、行動問題・非行、いじめ・不登校、外国にルーツのある子ども、虐待（反応性愛着形成不全）、経済的問題、性的マイノリティ等が挙げられる。また、場面緘黙（不安症）、気分症（うつ）、双極性症、インターネットゲーム依存症（引きこもりにつながる）、CU特性（生まれながらのやりにくさがあり、共感性に乏しく罪悪感が乏しい）、適応症（叱られ慣れていないストレス耐性の低い子ども）、HSC（感受性の強すぎる子ども）など、最近気になる子どもが増えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども自身は支援を必要としているので、早期に気づき、支援を開始すること。気づきが遅れるとダメージも大きくなる、周囲の理解と適切な支援が重要である。 ・子どもの発達上の様々な問題は、最初は「ことば」の問題として気づかれることが多いので注目。気づき…ことばが出ない・増えない、発音がおかしい、人前で話さない、独特のことば遣い、一度出たことばが消えた <p style="text-align: center;">考えられる要因…発達の遅れ、学習や行動の問題、社会性の問題、聞こえの問題、発音の問題、虐待などの養育環境の問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ★どんなに困難を抱えた子どもでも、必ず成長する。乳幼児期は個人差が大きく「障害」か「個性」か、診断が難しい時期。診断にこだわらずに、子どもが困っていたら具体的な支援の方法を考え、毎日の生活の中で工夫することが大切である。 ★子どもの主体性を育み、自分で考えて自分の行動に責任を持てる子どもに育てていきたい。成功体験を積み、子どもが自分のことを好きになれるように、注目する（子どもに関心を示し続ける）、共感する（聴く、受け止める、理解する）、認める（当たり前・悪くない状態）、ほめる（成功体験、できることから始める）など自尊感情を高める関わりが大切である。 <p>◎保育園等における支援をすすめるためには、園内での支援体制づくり、関係部局等との連携、ナチュラルサポート（ユニバーサルデザインの保育）が必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員や保育士の役割は、理解者・共鳴者・モデル・遊びの援助者・心のよりどころ。 <ul style="list-style-type: none"> ★大人の怒っている顔の向こうには子どもの笑顔はない。子ども本人ばかりではなく、子どもを取り巻く環境を調整することによって「大人が期待する行動」を子どもが自発的にできるように。今日から少しずつ、無理せずやりましょう。行き詰ったらいつでも相談してください。 <p>☆終了後の質疑応答では、参加者から子どもへの対応について困っていることなど多数質問があり、伊丹教授より丁寧に助言をいただきました。</p>			
 			